

平成 14 年 5 月 4 日

福留 潔

2001 年度茨城大学オリエンテーリング部オフィシャル活動報告

1. 学生からの要求事項

- (1) ショートインカレ、本セレ、インカレには、やむを得ない場合を除いて必ず出席してもらおう。
- (2) 練習会・合宿等で現役生から要請があった場合、運営を手伝ってもらおう。
- (3) インカレ団体戦メンバーの最終決定権がある。

団報 OLD Vol.75,(5 月 30 日)によると、目標：男女ともインカレ TOP10 以内！

2. 福留から学生への要求事項

- (1) 必要に応じてオフィシャルから現役生に練習会開催を要求できる。
- (2) 課題を明確にすることを目的として練習会・合宿のメニューとコースについては、オフィシャルと相談の上、決める。
- (3) オフィシャルとオリエンテーリング部の連絡窓口を置く。部長とする。また、部長がその役割を果たせない場合は、代理人を示し、オフィシャルに連絡する。
- (4) 現状をより確実に把握するため、大会等の成績はオフィシャルへ報告する。
- (5) オリエンテーリングへの動機付けの一環として団報を月一回発行する。

3. 当初のトレーニングスケジュール

フェーズ名	指 導	実 践	結 果
第一フェーズ (6 月－8 月)	ショートセレ対策(6/9) 学年別テレ歩き 紫陽花(6/23,24)	ショートセレ 紫陽花	夏合宿
第二フェーズ (8 月－12 月)	夏合宿 コスモス合宿(9 月後半)	夏/秋合宿(7,8,9 月) 秋のシーズン(10,11 月)	プレセレ 秋のシーズン大会 ショートインカレ 本セレ
第三フェーズ (12 月－3 月)	冬/春合宿	冬/春合宿 OC 大会	OC 大会 インカレ 全日本

- ・ 第一フェーズ：基本技術をマスターする。
- ・ 第二フェーズ：レースで成果を出す。
(成果とは、単に成績ではなく、技術的な課題に練習の成果を出す事が出来た)
- ・ 第三フェーズ：インカレクラシックとインカレリレーで成果を出す。

4. 活動結果

(1)活動の概要

今年度のオフィシャル業務の概要を示す。詳細は、六国会ホームページを参照のこと。

日程	イベント名	場所	備考・参加一般OB
6月6日	東大大会	赤城	現役学生との意見すりあわせのため
6月9日	ショートセレ対策練習会	山武	蛭田
6月16日	ショートセレ	一宮	山本（但し、福留は前日泊まで）
6月23,24日	紫陽花合宿	日光霧降高原	蛭田、福地、若井、鈴木唯、蓼沼
9月13,16日	夏合宿	八ヶ岳	岩田、大塚、綿引、多田夫妻、若井、中田、鈴木唯、蛭田、福地
9月23日	プレセレ対策練習会	日立玉簾の滝	飯島
9月30日	プレセレ	青梅	中田
11月3日	筑波大前日練習会	日光霧降高原	蛭田、笠井
11月11日	本セレ対策練習会	日光霧降高原	学生運営：世田、田村将
11月17日	インカレショート対策練習会	山武	若井
11月24日	インカレショート	石川・加賀	鈴木唯、蛭田、岩田
12月2日	本セレ	群馬・五町田	蛭田
2月10日	関東インカレリレー	日光	岩田、蛭田、笠井
2月23,24日	インカレ前合宿	日光霧降高原	鈴木政、一関、蓼沼、蛭田
3月8,9,10日	矢板インカレ	日光・矢板	

参加したけど書いてないよというOB・OGの方いたらごめんなさい。

今回、11月11日の本セレ対策練習会と2月23,24日のインカレ前合宿の運営が非常に厳しかった。

練習会をオフィシャル・サブオフィシャルだけで準備することは、非常に無理がある。特に、現役学生が少ない現状では、学生が運営すると、練習できる人数は1～2人という事態がある。特に今年度、オフィシャル・サブオフィシャルだけで、トレイン歩きなどの非常に高密度な練習を各自のレベルに合わせて行うことが出来なかった。この点は、非常に問題がある。スタッフとしてオフィシャルをサポートするOB・OGの運営手伝いがどうしても必要である。

今後、六国会には、練習会等の運営を積極的にフォローする方向で協力して欲しい。

(2) インカレ結果

インカレショート

ME A-Final	WE A-Final
1 禅洲 拓 0:21:57	1 田島 聖子 0:22:16
2 増田 佑輔 0:22:41	2 番場 洋子 0:23:28
3 金澤 拓也 0:22:48	3 黒河 幸子 0:23:43
23 塙 利彦 0:29:47	17 鳥羽田恵理 0:34:00
	18 小泉 沙織 0:34:57

インカレクラシック

ME	WE
1.小泉成行 筑波 1:11:34	1.番場洋子 京都 1:05:24
2.許田重治 京都 1:14:06	2.宮内佐希子 京都 1:05:37
3.金澤拓哉 東北 1:14:16	3.石川裕理 京都 1:13:16
72.塙利彦 茨城 1:47:00	32.小泉沙織 茨城 1:44:31

インカレリレー

ME	() 内は学年			
1.京都大学 3:59:53	岡野健太郎 (3)	西尾 信寛 (3)	新宅 有太 (2)	許田 重治 (4)
2.東京大学 4:00:17	青木 博人 (2)	加藤 弘之 (4)	久野 雄介 (2)	降旗 芳典 (4)
3.早稲田大学 4:10:21	知念 毅 (3)	櫻坂 尚 (2)	寺垣内 航 (2)	榎本 和弘 (4)
4.東北大学 4:14:28	堀江 守弘 (2)	禅洲 拓 (3)	菅原 啓 (4)	金澤 拓哉 (4)
5.筑波大学 4:20:03	武政 泰輔 (4)	佐々木良宜 (3)	増田 佑輔 (4)	小泉 成行 (4)
6.新潟大学 4:29:46	中野 秀紀 (4)	樺沢 直行 (2)	大竹 尚孝 (4)	今福 和也 (4)
10 慶応義塾 4:56:48				
13.茨城大学 5:21:04	引地 隆介 (3)	塙 利彦 (4)	川口 大貴 (3)	槐 正明 (4)
WE				
1.東京女子大学 3:02:53	田島 聖子 (3)	川島 沙耶香 (2)	山本 真美 (4)	
2.東北大学 3:03:00	本多 祐子 (4)	姫野 祐子 (2)	半澤 美咲 (4)	
3.筑波大学 3:03:14	黒河 幸子 (3)	高野 麻記子 (2)	二俣 みな子 (4)	
4.千葉大学 3:22:20	蓬菜 真子 (4)	原 響子 (2)	高瀬 彩和 (4)	
5.京都橘女子大学 3:24:58	塩田 純子 (4)	横澤 夕香 (3)	松田 亜希子 (3)	
6.相模女子大学 3:25:11	望月 順子 (3)	鈴木 誌奈子 (3)	井手 千寛 (3)	
10.茨城大学 3:48:23	鳥羽田 恵理 (2)	小泉 沙織 (3)	田口 久美子 (2)	

(3) インカレリレーメンバー決定の経緯

本セレ通過者である、塙と小泉は、準備期間を考え、本セレ当日にメンバーとして決定した。

女子については、関東インカレリレーの段階で鳥羽田、田口とした。他大学からは、四ノ宮が当然とする雰囲気があったが、今年度のインカレに対する準備（基本技術の習得の経緯、参加意欲）と今後の将来性を考え選択した。

男子は、早大大会で行われたセレクションで引地が通過、インカレ前合宿の優勝にて川口が通過した。最後の一人は、当初、3年次から選択するつもりであったが、優勝の結果とルートから体力と技術力を判断したところ選手権クラスに出場するレベルに達しているとは言えず、オフィシャルの役割として、厳しいが3年次から選択しないことにした。

残りの4年次から、細田・エンジが候補として残ったが、ルートチョイスの技術面から、4人目はエンジに決定した。しかし、埴、引地、川口とも、怪我の危険があったため、5人目として、細田を決定した。

5. まとめ

今回オフィシャルを務めた動機は、「OLDが壊れている」と感じたからだった。

2000年度の愛知インカレで観戦・打ち上げで同じ宿に泊まった際に、久しぶりに学生と接した。そして、2年生以上の上級生と1年生の間の距離感、その状態に対して、おかしいと誰も言わないOB・OGを目の当たりにして、「こりゃ、つぶれる」と感じたためであった。

問題は、一年生M君のオリエンテーリングを行う事を放棄するという行動に、他の一年生が同調していたからであった。引地新部長の英断により、M君は退部することになり、その余波として、上述の距離感が生まれていた。最終的に、愛知インカレに参加していたM君に同調していると思われる部員は、その後姿を消していった。

そのような、背景があり、オフィシャルとして、OLDのオリエンテーリングへの回帰を目指すことに下記の目標を学生に示した。そして、前述の3つのトレーニングフェーズを設定した。

「・学生みんなにオリエンテーリングをうまくなってもらう

オリエンテーリングを楽しむ人=オリエンティアを一人でも多く育てていくこと。

結果として、オリエンテーリングを楽しんだ経験から、みんなが自らインカレリレーを目指そうという気持ちになってもらいたい。

そして、OB, OGになってからも積極的にオリエンテーリングに関わってもらいたい。」

とりえず、第一フェーズで2年生と3年生のオリエンテーリングを見て愕然としたのは、正置がしっかりと出来ていない、地図を読む力もほとんど身に付いていないというものがあった。丁度、インカレショートセレクションがあったため、そこで、地図読みができなくても、ある程度成果が出るように、歩測とコンパス直進の技術に特化して集中的に練習を行った。これは、2年生女子の鳥羽田と田口に成果が出て、オリエンテーリングへの動機付けとなった。

第二フェーズでは、本セレ通過も2名だけとあまり、結果が出せなかった。特に、問題であるのは、学生の体力面であった。オリエンテーリングを楽しむには、もう少し、体力があった方が楽しめるんだけど学生と話をして、日々トレーニングするには、レポートが忙しいなどと、いまひとつ、オリエンテーリングの楽しさが伝わっていないのかと感じさせられるものだった。

第三フェーズでも、優駿という大きな課題を設定したが、それをクリア出来る者があま

りいなかった。

インカレでは、リレーで男子は13位であったが、今のメンバーでも、もう少し、トレーニングして準備していけば、入賞可能であると感じた。それほど、他大学もレベルは高くない。入賞したいと思うか思わないか、ミスをするかしないか、準備するかしないかだけである。一応、女子は目標に達した。

オフィシャルとして、一つ残念であったのは、塙の競技成績を伸ばせなかったことがある。クラシックでも72位と、パットしなかった。この点は、メンタル面も含め私の指導方法に問題があった。エリートを育てるには、もっと、技術力のある人間が必要と感じている。

今年は、オリエンテーリング回帰を可能とするため、例年にないほど非常に多くの練習を行った。その結果、上級生の一部には、基本的な技術の土台ができたと思う。しかし、こうした技術は継続して研鑽しなければ、すぐに低下してしまう。さらに、4年次の世田・田村将、3年次の阿部には、もっと基本技術を習得するための練習が必要である。

他の上級生、特に川口と小泉は、さらに、体力を付ける必要がある。

昨今の茨城大学の学生と接して感じるのは、「井の中の蛙」という印象である。自分の見える範囲でしか物事を見ようとせず、その限られた視野から判断を下しているように感じる。20代前半とは、視野を広げるための試行錯誤の期間ではないのか、だから、その視野を広げるトレーニングの一つとして、オリエンテーリング競技という場所を活用して言って欲しいと強く思う。そして、人間として大きくなって欲しい。

以上